

家畜衛生広報いいだ

長野県飯田家畜保健衛生所
飯伊家畜産物衛生指導協会
TEL : 0265-53-0439、0440
FAX : 0265-53-0441
E-mail : iidakachiku@pref.nagano.lg.jp
http://www.pref.nagano.lg.jp/iidakachiku/

H29 (2017) 8.4 発行 2017_No. 4

酪農生産性向上対策事業による

平成29年度 第1回 バルク乳検査の集計結果をお知らせします。

ご自身の検査結果も合わせ、乳質改善の参考にしてください。

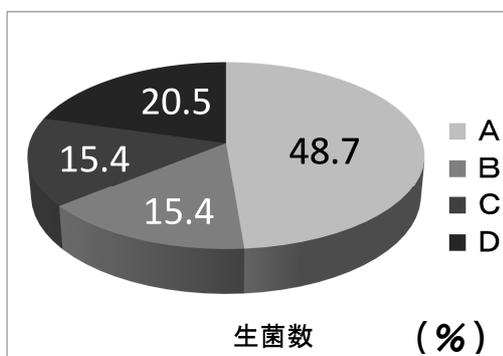
評価

A : 正常/目標 B : やや多い C : 多い D : 非常に多い

☆ B・C・Dランクの農場は、乳質アップの余地がまだまだありますよ！

※ グラフは管内の検査戸数(39戸)のうちA～D評価それぞれの戸数の割合(%)です

★生菌数

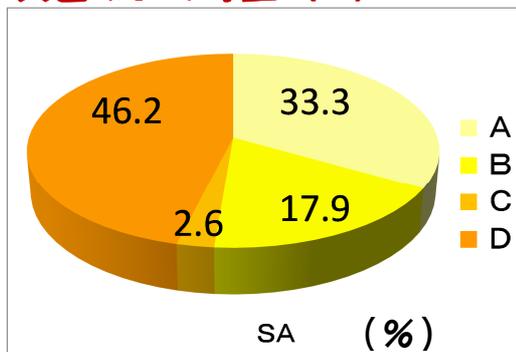


生菌数は搾乳衛生全体の評価指標となります。

他の菌が少ないのに生菌数だけ飛びぬけて多い場合は機器の状態を再確認しましょう。

- 機器の洗浄具合 (隅やパッキンなどにこびりつき汚れが残っていないか、自動洗浄はきちんと働いているか等々)
- バルククーラーの温度管理

★黄色ブドウ球菌 (SA)

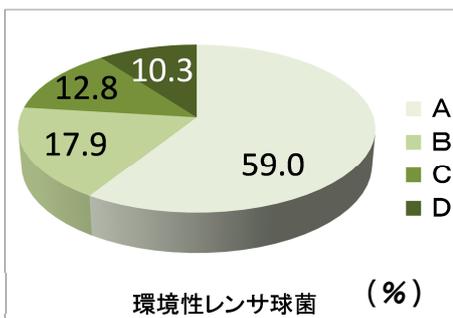
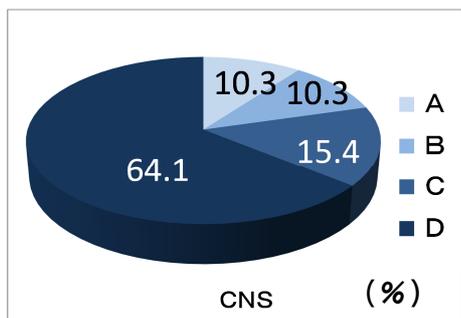


約70%の農場からSAが検出されました (B～D)。昨年度より10%近く増えています。

SAは分離されないことがまず重要です。個体乳検査で陽性個体の確認と衛生対策を検討しましょう！ (裏面につづく)

SA保菌牛の特定、対応については当所にご相談ください。

★環境性ブドウ球菌(CNS)、環境性レンサ球菌

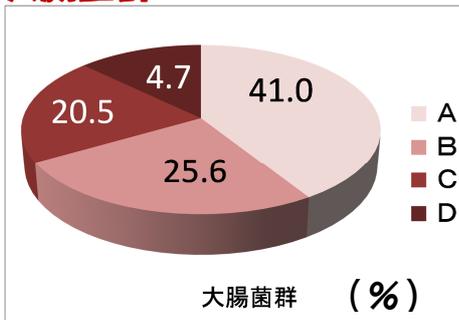


これらの菌は搾乳作業や飼養環境の衛生状態の指標となりますが、バルク乳の体細胞数が多い場合にはこれらの菌による乳房炎牛の存在も疑われます。

乳房炎予防のため・・・過搾乳に注意しましょう

乳頭清拭からミルクー装着までは1～1.5分、搾乳(装着から離脱まで)は5分以内が牛が乳を出す能力を上手に利用できる作業時間です。

★大腸菌群

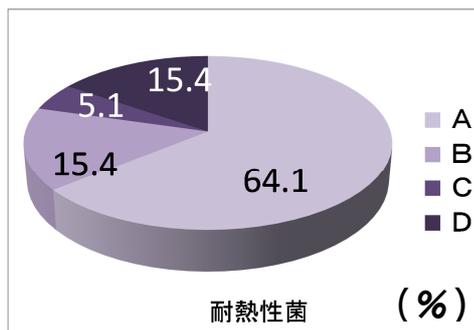


大腸菌群が多数分離される場合、乳房炎牛からの排菌も考えられますが、多くは搾乳中に糞便などを誤って吸引していたり、搾乳機器の洗浄殺菌に問題がある事例です。

菌数の多い農場は、搾乳手技や搾乳機器の衛生管理を確認しましょう。

- 1頭1布の徹底
- 清拭は乳頭のみ（乳房全体を拭かない）

★耐熱性菌



耐熱性菌はミルクラインや機器の洗浄・殺菌状態の良し悪しを反映します。

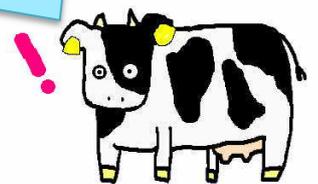
検出された農場は搾乳機器の洗浄手順を再確認しましょう。

- ラインの洗浄温度
- 酸性、アルカリ性洗剤濃度の確認

なお、同時に行ったマイコプラズマ検査は全て陰性、BVD-MD（牛ウイルス性下痢・粘膜病）遺伝子検査は1農場が陽性でした（対策済み）。

今回 SA が検出された農場が全体の 70%ありましたが、農場にさらに広げないよう、SA に感染していない牛がこの先も良い乳を出せるよう、対策を再確認してみましょう。

- SA 感染牛、感染分房の特定
 - 搾乳順序の変更：陽性牛は最後に搾ります
 - 乾乳期治療
 - 分娩後の検査
 - PL テスターでの確認
- ★ 過搾乳の防止（乳頭口を傷つけない）



搾乳衛生・管理等のご相談はお気軽に！

連絡先 飯田家畜保健衛生所 保健衛生課

Tel: 0265-53-0439 Fax: 53-0441